



# 江陵 延長制す



## 夏の高校野球 十勝支部予選

第2日は30日、帯広の森野球場でBブロック1回戦の3試合を行った。今大会初の延長となった午前の第1試合は、江陵が十回に佐藤龍馬(3年)の二塁打を足掛かりに相手ミスで3-2でサヨナラ

勝ち、2年連続の初戦突破で準決勝進出を決めた。広尾は春に続きサヨナラで惜敗した。29日午後のAブロック1回戦は、帯三条がエース森川快刀(3年)の力投で帯南商の猛追を3-2で振り切り、3年連続の4強入りを決めた。帯広は四球に2桁安打を絡めて清水を逆転。八回コールドの10-3で快勝した。  
(岡部彰広、折原徹也、塩原真)

◇Bブロック▽1回戦

広尾	000002000000	3
江陵	000000200001	2

(延長十回)

【広】佐藤龍馬(3年) 二塁打  
【江】古谷優人(1年) 三塁打

六回まで1安打に抑えられていた江陵は、七回1死から阿部聡の死球に因り、伏見の連打で満塁とし、古谷の2点中前打で同点に追いついた。最終回に2死三塁のサヨナラ機を逃したが、十回に佐藤龍馬の左中間二塁打に三盗と捕逸で決勝点を挙げた。

五回途中から登板の左腕古谷は球が高めに浮いたが、六回から毎回の7奪三振無失点の好投だった。広尾は三回2死一二塁

## 古谷同点打&好救援 広尾を転

四回2死満塁の先制機を逃したが、五回に中山一の死球と梨木の内野ゴロで1死二塁とし、藤井の左中間二塁打で先制。さらに藤井の三盗と佐藤の三遊間を抜く適時打で2-0とした。しかし、七回に死球と連打による無死満塁の好機を逃したのが痛かった。

遅球を狙い打ち  
投球にもリズム  
江陵・古谷

○：江陵の古谷優人(1年)が同点打にロングリリーフで無失点と投打に活躍し、勝利に貢献した。

七回の満塁のピンチをしのいだ直後の攻撃だった。1死満塁で打席に立った古谷は、それまで味方が苦しんでいたスローボールを狙

い打ち。投手返しの鋭い打球が中前に抜け同点の2-1打となった。  
この回以降は「リラックスした」と投球にも弾みつけた。終わってみれば、2死三塁のピンチもしぎ無失点。春に初登板以来、公式戦連続無失点ニングを21に伸ばした。だこの活躍にも笑みはほとんどなく、「(無失点は)にしている。それより次(帯農)は強い相手。年生と一緒に甲子園に行

【Bブロック1回戦・江陵-広尾】延長10回、江陵は1死三塁から捕逸の間に三走の④佐藤龍馬が突入、本塁を力バーした広尾の①佐藤祐輔投手と交錯しながら生還、サヨナラ勝ちを決める